

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日13:00～14:00
 例会場 ANAクラウンプラザ
 グランコートホテル名古屋
 承認 2013年6月18日

会長 菊地 富士子
 幹事 荒山 久美
 公共イメージ
 向上 藤谷 猛



2024～2025年度名古屋アイリスRCのテーマ

不易流行

～ DEIを取り入れて新しい風を私たちのクラブへ ～

●お問い合わせ: office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト: http://www.nagoya-iris-rc.jp

第517回 例会

2025年4月9日 13:00～

- 司 会 島村恵三 例会・出席・親睦委員
- 斉 唱 我らの生業
- 出席報告 出席者数 11 名 / 20 名
出席率 55.0 %
- ゲ ス ト
- ビジター

ニコボックス

- 青木恭子 副会長
長松さんのお話、楽しみにしています。
- 荒山久美 幹事
今日、初めて保育園に孫をお迎えに行きました。

会長挨拶



皆さんこんにちは。517 回例会です。名古屋は桜が満開です。昨年母と妹と満開の桜を一緒に見に行ったあと間もなく母はなくなりました。ベッドにいる母に頑張っってねと声をかけると頑張るのはあなたたちよと言われました。満開の桜を見ると母が私たちに応援をしてくれているのだと感じます。

「足るを知る」これは中国の古典『老子』に出てくる言葉で「足るを知る者は富む」つまり今あるもので満足することが本当の豊かさにつながるという教えです。現代私たちは情報もモノも溢れています。「もっと、もっと」とより多くのものを手に入れようとするあまり、かえって心は満たされず常に何かが足りないと感じてしまいます。そんな生き方では、いつまでたっても幸せになれないということでございます。

それに対して、「足るを知る」生き方は今あるものの中に価値を見出し感謝しながら暮らすことです。決して贅沢を否定しているわけではなく物の豊かさよりも心の豊かさを大事にしようという姿勢です。日本の様々な伝統文化における侘び寂の美しさにも、この「足るを知る」精神があります。質素でありながら、どこか奥深く、静かな満足感を与えてくれます。「足るを知る」は「もっと」では

幹事報告

幹事報告

幹事報告は以下の通りです。

- ① 4月の例会は残り1回で4/25(金)12:30-13:30名古屋東急ホテルにて名古屋北、名古屋葵との3RC 合同例会です。食事は立食スタイルということです。
- ② 4/20(日)12:30 から地区協議会がマリOTTアソシアホテルで開催されます。出席理事の皆様宜しくお願いします。
- ③ 5月の例会は、5/7(水)通常例会で理事会があります。5/10(土)は移動例会でRFFの会場の久屋公園で13:00-13:15まで開催します。15-16時は東名古屋分区の当番がありますので会長と私が担当します。5/21(水)は通常例会で藤谷委員長によるAI 人口知能についての卓話があります。
- ④ 年度末が近づいてきましたので、地区や東名古屋分区から宴会のお誘いなどがありますが、地区開催のものについてはクラブがその登録費を負担しますが、その他のものについては自己負担となりますのでご理解のほどお願い申し上げます。

卓 話

演題:最近の市況

卓話者:長松久美子さん



【卓話要約】

現在の経済情勢は、過去の歴史と密接に関連しており、特に1920年代との類似点が多く見受けられる。トランプ大統領の関税政策は「強いアメリカ」を掲げながらも、米国内のサプライチェーンが完結していないため、関税強化が逆に米国経済へ悪影響を及ぼしている。さらに、この強硬な政策により、株式市場はボラタイルな状況が続いている。

米国経済は2008年のリーマンショックの記憶を背負いながらも、コロナショックによる長期的な悪影響を免れた。しかし、約20年間にわたり景気悪化を経験していない米国経済には市場の歪みが潜んでい

る可能性があり、警戒が必要だ。

歴史を振り返ると、1920年代にはスペイン風邪のパンデミックが経済を混乱させ、その後インフレと労働力不足が深刻化した。これは2025年のコロナパンデミック後の状況と類似しており、過去の過熱と崩壊のシナリオが再現される可能性も考えられる。

1920年代後半には米国が高関税政策(スモート・ホーリー関税法)を導入し、各国が報復関税を課した結果、世界貿易が縮小した。この政策はトランプ政権の関税政策と非常に似通っている。また、1930年の関税法では2万品目以上の輸輸入品に高関税を課し、多くの国が米国製品への関税を引き上げたことで米国の輸出入は半減。一部の経済学者は、この政策が世界恐慌の深刻化につながったと指摘している。

経済格差とインフレの問題も顕著である。1920年代、工業化により富が資本家に集中し、ドイツではハイパーインフレが発生。社会不安の中で外国人への敵意が高まった。この構図は2025年にも通じる部分があり、グローバル化とテック企業の台頭によって格差が拡大し、物価上昇が庶民の生活を圧迫している。米国では「アメリカ・ファースト」が再燃し、日本でも外国人労働者への風当たりが強まる兆候がある。

株式市場は依然として不安定だ。1920年代の株価が実体経済を超えて高騰し、1929年に「暗黒の木曜日」で崩壊した歴史と照らし合わせると、最近の市場も低金利やテックブームにより過熱しており、日経平均がバブル後の最高値を更新している。この流れが続けば、新たな「ブラック〇〇」や「〇〇ショック」が訪れる可能性も示唆されている。

一方で、現代は1920年代とは異なり、グローバル化が進展し、ユーラシア大陸の経済的結びつきが強固になっている。金融システムの強靱性や情報・技術革新の進歩も、大きな違いとして挙げられる。

歴史が繰り返される中でも、混乱や破壊の先には新たなチャンスが存在する。Appleの復活は、スティーブ・ジョブズが従来のビジネスモデルを大胆に変革したことが契機となった。日本も敗戦から復興し、成長を遂げたように、現状の混乱の中でゲームチェンジャーが突然現れる可能性は十分にある。

トランプ大統領の真意はどこにあるのか、彼自身がゲームチェンジャーなのか、それとも新たな技術革新が鍵を握るのか。その答えは、生成AIや量子コンピューターなどの技術に絡んでいるのかもしれない。時代の変化に柔軟に対応し、新たな勝ちパターンを見極めることが求められるだろう。

(要約:藤谷)

国際ロータリー第2760地区HPのご紹介

<https://www.rotary2760.org>

2760地区のHPには、地区内クラブの活動内容が掲載されています。わたしたち名古屋アイリスロータリークラブの社会奉仕活動も掲載されていますので是非ご覧ください。



他にも各委員会報告、地区からのお知らせ、ガバナー月信のPDFなど多くの情報が得られますのでご活用下さい。

クラブ事業報告検索

Club Report Search

クラブ名・タイトルなど

検索

